

# 第8回「日本語大賞」

テーマ「あまり使いたくない日本語・もっと使いたい日本語」

小学生の部 優秀賞 受賞作品

## 私の最高のおもてなし言葉

新潟県  
長岡市立青葉台小学校  
小学4年 宮下 月希

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

世の中には、たくさんの方言がある。私の住む長岡にも、たくさんの方言があつて、他の地いきの人には、伝わらない言葉もある。長岡は、言葉の語尾に「〜が。」をつける。若い人は言わないけれど、お年寄りは、言葉の語尾に、必ず『が』がついている。

『そうですね』を『そいがー』と言う。『やだね』を『やんがーよ』と言う。初めて聞いた時、何を言っているんだろう？と不思議だった。長岡出身でない私のお父さんは、語尾につく『ガー』の言葉を聞くと、ガーガーうるさいと方言をバカにする。なので、お母さんは、お父さんという時は絶対方言を使わない。でも、気をゆるした友達や年配の人と話をする時は、方言を出して会話する。

「何で、パパと一緒だと使わないの？」

と聞くと、パパと一緒にだと言わないと言う。長岡の人だと、考えなしで、ふつうに出てしまうそう。お母さんは家族という何十年の間、方言は出ていない。けれど、母にとって方言は、自分の生まれた証だと思う。

長岡の方言で、大好きな言葉がある。これも、お年寄りがよく使っている。

『なじょうも。』  
と言う方言。

私は、始め何を言っているのかさっぱりわからず、自分で調べてみた。『いくらでも』『好きなだけどうぞ』といった意味らしい。おもてなしに使うのに最高の言葉だ。おばちゃん家に行くと、必ず、なじょうもが何十回も聞ける。お菓子をもらい、食べて良いのか聞く時、ごはんをごちそうになる時、帰りにお土産をもらう時と何度も言われる言葉。その言葉にあまえてついたりたくさんもらってしまう。でも、私にとって、もつとうれしい、『なじょうも』がある。それは、長くそのお家にいたい時、

「まだ、ここに居ても良いですか？」

の問いかけに、いつもにっこり、

『なじょうも。なじょうも。』

の返事。好きなだけ、いくらでもいていいのよ、まだここにいて良いよという意味の、『なじょうも』が大好き。

最高のおもてなしに聞こえる『なじょうも』がとってもとっても心地よくて、ほっとする。

方言は、本当にさまざま。その地につまった大切な宝物の言葉。言っただけか、自然にありえない。自信を持って使って良い自分たちの大切な言葉。

今では、もう長岡人の私。私もいつか何も考えず長岡弁を使うようになるのだろうか？自然に使えるようになったら、私も誰かに言ってみたい。最高のおもてなしの

『なじょうも』と言う言葉を。今はまだ、ちょっとはずかしいけれど、自然に、自然に、言ってみよう。